

景況調査

(平成24年4月～6月期)

平成24年4月～6月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数(景気動向指数)を用いて示している。

平成24年4月～6月期の調査結果では前回調査に比べて、売上高DI、業況DI、採算(経常利益)DIと資金繰りDIが主要4指標全てで下落という結果になった。また、7月～9月期見通しでは、業況、売上高、採算(経常利益)、資金繰りの主要4指標全てで上昇となっている。

〈業況〉

平成24年4～6月期の業況DIは▲35.3と前回調査に比べて4.9ポイントの下落となった。業種別では、小売業、製造業、卸売業が前回調査より高い値であったのに対して、建設業、サービス業では前回調査より低い値となった。

平成24年7～9月期見通しでは、建設業、サービス業で

DIは上昇し、製造業は横ばい、小売業、卸売業は下落となっている。

〈売上高〉

売上高DIは▲44.3と前回調査と比べて20.4ポイントの大幅な下落となった。業種別では、製造業が前回調査を上回るDI値である他は、小売業、建設業、サービス業、卸売業の4業種でDI値が前回調査を下回った。

平成24年7～9月期見通しでは、全体では22.9ポイント回復の▲21.4となっている。

〈採算(経常利益)〉

採算(経常利益)のDIは▲50.0となった。これも前回調査に比べて5.1ポイント下落している。業種別では、小売業と製造業が前回調査よりプラスのDIとなったが、建設業、サービス業、卸売業は前回調査よりマイナスのDIとなった。平成24年7～9月期見通し

では、全体4～6月期に比べて回復となっている。

〈資金繰り〉

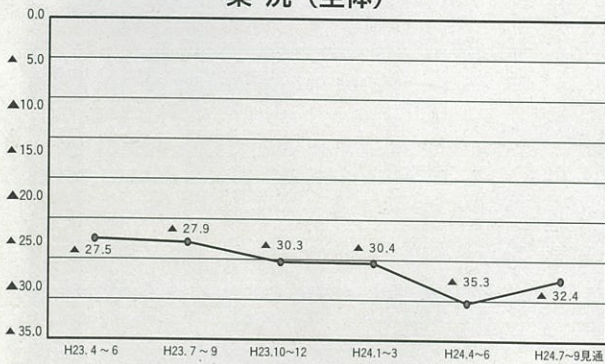
資金繰りのDIは▲15.9と前回調査に比べて1.8ポイントの下落である。業種別では、小売業と卸売業が前回調査より高い値となり、製造業、建設業、卸売業は前回調査より低い値となった。

平成24年7～9月期見通しは▲14.3と4～6月期に比較すると少し回復している。

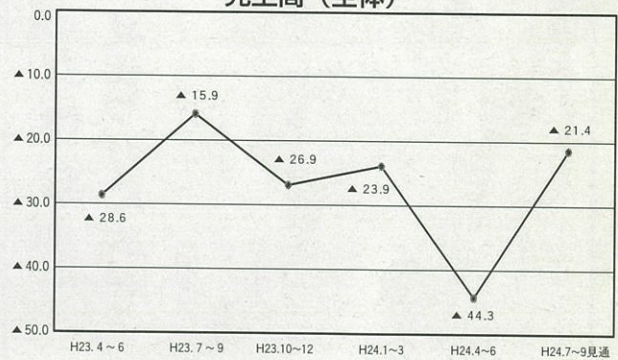
〈その他の意見〉

- ・ 関西と関東では競争力が違う。競争がない所には発展がないと思う。
- ・ 地域物産づくりを目的にやっているが、行政やその他の援助が欲しい。
- ・ 技術力の国外流出に対する法的規制が必要なのではないか。
- ・ 東日本大震災以来の消費意欲の低下に加え、節電、将来への不安、インターネット、大型店の進出で消費マインドは低下をたどる。政権が増税路線になれば、小売は壊滅的な打撃を受けると思う。

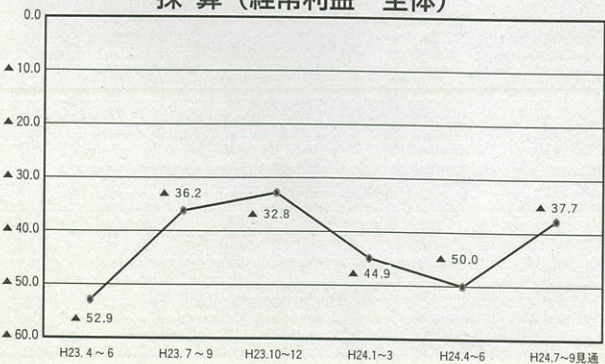
業況(全体)



売上高(全体)



採算(経常利益 全体)



資金繰り(全体)

